

2019年度

老年看護学実習

病院実習

[表紙1]

【提出記録用紙】

- 1 実習評価表
- 2 日々の体験記録
- 3 課題レポート①
- 4 課題レポート②

学生証番号： K F

学生氏名 :

実習期間 : 月 日 ~ 月 日

実習施設名 :

担当教員名 :

指導者名 :

看護学科3年 専門教育科目

2019年度

老年看護学実習

病院実習

[表紙2]

【提出記録用紙】

- 1 実習計画表
- 2 アセスメント用紙1
- 3 アセスメント用紙2
- 4 問題リスト
- 5 看護過程展開用紙
- 6 プロセスレコード

学生証番号： K F

学生氏名 ：

実習期間 ： 月 日 ~ 月 日

実習施設名：

担当教員名：

指導者名 ：

看護学科3年 専門教育科目

授業科目名：老年看護学実習

単位／時間：4単位／180時間（3単位／135時間：病院実習）

対象／開講：17KF／3年生 通年

担当教員：飯室 淳子、芹澤 章子、春田 典子、高倉 由紀子、他1名

ディプロマポリシーとの関連：○該当する ◎特に該当する

- ◎ 1. 人間の生命と尊厳および権利を尊重した行動がとれる。
- ◎ 2. 自律した一人の人間として、社会や他者へ責任のある行動がとれる。
- ◎ 3. その人らしい生活を整える視点を持つことができる。
- ◎ 4. 科学的根拠に基づいた知識及び技術を用いて、対象にあった看護を計画的に提供できる。
- ◎ 5. 問題意識を持ち、学び続けることができる。
- ◎ 6. 保健医療福祉チームの一員として看護の役割を自覚し、主体的に行動できる。
- ◎ 7. 社会の変化に伴って生じる保健医療福祉の問題に関心をむけ、倫理的課題への感受性を高め、責任ある行動がとれる。
- ◎ 8. 幅広い視点から対象を理解し、経験を統合して自分のめざす看護が述べられる。

【目的】：

老年看護学実習

老年期にある対象の理解と自立した生活を支援するための看護の役割を理解する。

実習は、介護老人福祉施設および病院において行う。

病院実習

高齢者の特徴の理解と療養状況に応じた看護の実際から看護の役割を理解することができる。

【中核目標】：

- I 高齢者の特徴を把握し、高齢者の療養環境を整える必要性を認識することができる。
- II 高齢者の個別性を尊重した看護を展開することができる。
- III 高齢者に必要な診断・治療、看護に関わる看護技術を倫理的配慮のもと安全かつ安楽に実施することができる。
- IV 保健医療福祉に携わる職種が互いに尊重し合い、協働・連携していくことの重要性を理解することができる。
- V 高齢者および高齢者を支援する人々との関わりを通して、自己の老年観・人生観・看護観を培い、自己の役割を認識し行動することができる。

中核目標 I 高齢者の特徴を把握し、高齢者の療養環境を整える必要性を認識することができる。

行 動 目 標

1. 高齢者の加齢に伴う身体的・心理的・社会的機能の変化の特徴を一般性と比較して述べることができる。
2. 高齢者の疾病・障害によって生じる基本的ニード、生活習慣、生活状況の変化を述べることができる。
3. 高齢者の疾病・障害によって生じる役割・人間関係の変化を述べることができる。
4. 高齢者の疾病・障害の特徴（診断名、病因・病態、症状・症候、治療および経過、予後）を述べることができる。
5. 高齢者の健康問題に対処する能力（強み）を述べることができる。
6. 高齢者および家族・重要他者の療養に対する反応（希望、期待、悩み、不安など）を述べることができる。
7. 高齢者の療養過程で生じる変化を予測し、苦痛を軽減するための援助の必要性を述べることができる。

中核目標 II 高齢者の個別性を尊重した看護を展開することができる。

行 動 目 標

1. 効果的な看護過程展開のために、高齢者・家族・重要他者と良好な人間関係を築くことができる。
2. アセスメントの枠組みに沿って情報を分類・整理することができる。
3. 根拠に基づいて、情報の解釈・分析を行うことができる。
4. 看護上の問題を列挙することができる。
5. 看護上の問題の原因・誘因を記述することができる。
6. 看護上の問題およびその原因・誘因を解決するために、活用可能な高齢者の対処能力（強み）を記述することができる。
7. 看護上の問題の優先順位を記述することができる。
8. 患者目標を設定することができる。
 - 1) 達成可能な患者目標を列挙することができる。
 - 2) 高齢者の思いと設定した患者目標にズレがないかを確認し、より良い方向に向かうよう調整することができる。
9. 具体策を立案することができる。
 - 1) 具体策を立案する際に、看護技術の原理・原則を十分に検討し計画の中に織り込むことができる。
 - 2) 具体策を立案する際に、高齢者の安全・安楽を十分に検討し計画に織り込むことができる。
 - 3) 具体策を立案する際に、高齢者の対処能力（強み）を活かしているか十分に検討し計画に織り込むことができる。
 - 4) 高齢者を通して、活用可能な社会資源について考えることができる。
10. 効果的な援助を展開することができる。
 - 1) 1日の行動計画を看護師と話し合う前に、高齢者の最新情報を踏まえ見直すことができる。
 - 2) 原理・原則を踏まえ実施することができる。

- 3) 高齢者の安全・安楽を十分に配慮しながら実施することができる。
- 4) 高齢者の対処能力（強み）が発揮できるよう十分に配慮しながら実施することができる。
- 5) 高齢者を取り巻く状況やその変化に注意をはらい、調整しながら実施することができる。
- 6) 実施にあたり高齢者の個別性に応じて工夫点、配慮した点を説明することができる。
- 7) 実施中の高齢者の言動により計画を変更した点を説明することができる。
- 8) 具体策・実施した援助の良かった点と改善を要する点を説明することができる。
- 9) 改善を要する点に基づき、具体策などを見直し修正・追加することができる。
- 11. 患者目標の達成状況を評価することができる。
 - 1) 患者目標の評価日に達成度を評価することができる。
 - 2) 患者目標の達成度と評価の理由、今後の方向性を含め説明することができる。
- 12. 高齢者の個別性に応じた看護の実施に向けた自己の課題を述べるることができる。

中核目標 III 高齢者に必要な診断・治療、看護に関わる看護技術を倫理的配慮のもと安全かつ安楽に実施することができる。

行 動 目 標

- 1. 高齢者のコミュニケーションの特徴（感覚器官、認知力、言語力などの低下）を踏まえ、コミュニケーションプロセスを振り返ることができる。
- 2. 看護技術の実施にあたっては臨地実習における看護水準の手引きを参照し確実な技術を実施することができる。
 - 1) 援助行為は、事前に目的・方法・注意事項を学習したうえで実施することができる。
 - 2) 援助は、高齢者のその人らしさの尊重、プライバシーへの配慮、心身の苦痛への影響を予測し、軽減するための行動をとることができる。
 - 3) 援助は、その人の反応を確認しながら、正確に、落ちついて実施することができる。

中核目標 IV 保健医療福祉に携わる職種が互いに尊重し合い、協働・連携していくことの重要性を理解することができる。

行 動 目 標

- 1. 実習病院の特徴と看護部の看護方針、看護体制、他部門との連携と役割を確認することができる。
- 2. 看護単位（病棟）の看護方針、看護方式、病棟の特性を確認することができる。
- 3. 災害予防・対策、事故発生時の対処法を確認することができる。
- 4. 院内感染を予防するためのマニュアルに基づいて行動することができる。
- 5. 保健医療福祉のチーム間の協働・連携を通して、看護の独自性を考えることができる。
- 6. 家族・重要他者を支援するためのソーシャルサポートシステムの重要性を理解することができる。

中核目標 V 高齢者および高齢者を支援する人々との関わりを通して、自己の老年観・人生観・看護観を培い、自己の役割を認識し行動することができる。

行 動 目 標

1. 実習の経験に基づき学んだこと、自己の成長および今後の課題を述べることができる。
2. 自己の老年観、人生観、看護観の変化を述べることができる。
3. 看護チームのメンバーとしての自覚を持ち、主体的な役割を果たすことができる。
4. 看護チーム・学生間に生じた問題を解決するために、建設的な意見交換を行うことができる。
5. 実践した看護は適切な時期に報告し、実習記録に記述することができる。
6. 個人情報保護（患者・家族・職員・学生自身など）を遵守することができる。
7. 実習生にふさわしい身だしなみ、態度に気をつけ、ルールを守った行動ができる。
8. 遅刻・欠席をすることなく、自己の健康管理ができる。

病院実習－５（評価表）

【評価表】 老年看護学 病院実習		学生証番号			氏名			実習場所：			
								実習期間：			
実習目標	自己評価	指導者評価	教員評価	実習目標	自己評価	指導者評価	教員評価				
								よふ要 つ努 いう力	よふ要 つ努 いう力	よふ要 つ努 いう力	よふ要 つ努 いう力
1 高齢者の特徴を把握し、高齢者の療養環境を整える必要性を認識することができる。	1) 高齢者の加齢に伴う変化の特徴	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	3 高齢者に必要な診断・治療、看護に関わる看護技術を倫理的配慮のもと安全かつ安楽に実施することができる。	1) コミュニケーションの特徴、コミュニケーションプロセスの振り返り	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	2) 基本的ニーズ、生活習慣、生活状況	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		2) 確実な技術を実施	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	3) 役割・人間関係の変化	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		・目的・方法・注意事項の学習	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	4) 疾病・障害の特徴	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		・その人らしさ、プライバシー・苦痛軽減	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	5) 健康問題に対処する能力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		・その人の反応、正確に	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	6) 療養に対する反応	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	7) 変化の予測、苦痛の軽減	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
2 高齢者の個別性を尊重した看護を展開することができる。	1) 良好な人間関係を築く	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4 保健医療福祉に携わる職種が互いに尊重し合い、協働・連携していくことの重要性を理解することができる。	1) 病院の特徴、看護方針、体制	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	2) 情報の分類・整理	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		2) 看護単位方針、看護方式、病棟の特性	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	3) 根拠に基づく情報の解釈・分析	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		3) 災害予防・対策、事故発生時の対処法	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	4) 看護上の問題の列挙	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		4) 院内感染予防のマニュアル	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	5) 看護上の問題の原因・誘因の記述	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		5) 保健医療福祉間の協働・連携、看護の独自性	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	6) 高齢者の対処能力（強み）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		6) ソーシャルサポートシステムの重要性	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	7) 看護上の問題の優先順位	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	5 高齢者および高齢者を支援する人々との関わりを通して、自己の老年観・人生観・看護観を培い、自己の役割を認識し行動することができる。	1) 実習の学び、今後の課題	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	8) 患者目標の設定	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		2) 老年観、人生観、看護観の変化	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	・達成可能な患者目標	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		3) 看護チームメンバーとしての役割	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	・患者目標の調整	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		4) 問題解決のための行動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	9) 具体策の立案	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		5) 適切な時期の報告、記録	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	・看護技術の原理・原則	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		6) 個人情報保護の遵守	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
・高齢者の安全・安楽	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	7) 実習生にふさわしい行動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
・高齢者の対処能力（強み）を活かす	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	8) 自己の健康管理	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
10) 効果的な援助の展開	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	総合評価		目標達成度					
・最新情報から計画の見直し	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	S	A					B	C
・原理・原則を踏まえ実施	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	出席状況		欠席	日	早退	回	遅刻	回
・安全・安楽を配慮して実施	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	自己評価	署名						
・対処能力を発揮し実施	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								
・状況・変化に注意、調整	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								
・個性に応じた工夫・配慮	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								
・高齢者の言動により計画変更	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								
・具体策・実施した援助の説明	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								
11) 患者目標の達成状況を評価	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	指導者助言	署名						
・評価日に評価	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								
・達成度と評価の理由、方向性	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	教員助言	署名						
12) 個別性に応じた看護の実施	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

【実習方法】

1. 事前学習

- 1) 病院実習初日までに、受け持ち患者や実習病棟に関連した知識などの事前学習を行う。
- 2) 受け持ち患者については、病院実習開始前まで、あるいは実習初日に提示し決定する。
- 3) 実習病棟で体験できる看護技術体験内容については、現地オリエンテーションや、担当教員に確認し、知識・技術留意点について各自学習や演習を行っておく。
- 4) 実習前に技術チェックを行う。（詳細は別紙参照）
- 5) 課題レポート①「病院実習で達成したいこと」を作成し、病院実習初日に提出する。

2. 学習方法

1) 実習期間および実習時間

- (1) 実習期間 2019年5月13日（月）～10月26日（土）のうち3週間
- (2) 実習時間 8時30分～16時30分

2) 実習の進め方

- (1) 実習病院毎に祝日等によるスケジュールや集合時間などが異なるため、実習スケジュール（実習計画・学習の手引き）など各種資料の内容をよく確認する。
- (2) 実習病院の場所、交通手段を確認する。
- (3) 実習記録の種類と記載方法、提出や保管方法を確認する。
- (4) 実習記録は、原則として実習2日目以降、毎朝所定の場所へ提出する。
- (5) グループ毎に「看護学生行動計画」を用い翌日の行動計画を調整する場合は、毎日実習終了前に各自が記載した後、実習指導者に提出し相談する。
- (6) 最終カンファレンスは、病棟毎に1時間設定する。各自が自己の看護実践を振り返り、発言したいことをまとめておき準備して臨む。

3) カンファレンス（実習要項 カンファレンスの項参照）

- (1) 日々の実習体験を意味づけ、学習の方向性を見出すためにカンファレンスを行う。
- (2) 日々のカンファレンスは、各病棟単位で行う。場所は事前に実習指導者に確認する。
- (3) カンファレンスの進行は、司会・書記などの役割を決め、学生が主体的に行う。
- (4) 3週目における日々のカンファレンスは、事前にテーマを設定し、準備して臨む。

3. スケジュール

別紙実習スケジュール（実習計画・学習の手引き）参照

4. 留意事項

- 1) 実習要項総説を熟読し、約束事項を守る。
- 2) 服装、身だしなみなど
 - <実習中の服装>
 - (1) ユニフォーム着用（ワンピース型・パンツ型いずれも可）とする。
 - <通学時の服装>
 - (1) 通学時の服装はスーツに準じる。
- 3) 学生控え室・更衣室と病棟との移動時
 - (1) 実習記録や参考書などの持ち物は、必ず手提げ袋に入れて移動する。
 - (2) 持ち物は必要最小限にする。

- (3) 病棟保管場所では、学生同士が協力して保管・管理を行う。
- (4) 不必要なものは病棟に持ち込まない（携帯電話・高額なお金）
- (5) 水分補給のための飲用ボトルは持ち込むことができる。その際、破損に注意し、飲む場所は実習指導者に確認する。

4) 個人情報保護の遵守について

- (1) 実習要項総説「個人情報の取り扱い」を熟読する。
- (2) 実習記録はA4フラットファイルに綴じ、実習中もファイルから外さずに使用する。
- (3) 使用するメモ帳は外れないタイプのもとし、原則としてバイタルサイン測定した値の記入時のみ用いる。
- (4) 学内実習などで、実習記録を取り扱う場合は記録の管理を徹底する。施錠できる場所に保管して移動する。
- (5) 実習日は毎朝必ず体温を測定し、実習開始前に異常の有無を教員及び実習指導者に報告する。

5) 実習中の行動と態度

- (1) 看護援助の際は、常に目的・目標・留意点を意識して、できないことを明確にして曖昧な態度や行動をとらない。
- (2) 必ず実施「前」「後」に、実習指導者または教員に報告する。
- (3) 学生単独判断での援助は行わない。

6) 欠席・遅刻の連絡方法

- (1) 欠席・遅刻の連絡は、必ず電話で行う。連絡は病院毎の方法を確認する。
- (2) 遅刻の場合は、状況や到着時間等を必ず報告する。
- (3) 欠席の場合は、欠席理由、病気の場合は受診状況、経過や医師の指示などを報告する。

5. 実習記録と提出方法

1) 実習評価表

- (1) 中間評価と最終評価は項目毎に自己評価し、指示のもと提出する。

2) 日々の体験記録

- (1) 毎日記載し、翌日、実習開始前に提出する。提出方法は、各実習病棟の臨床指導者あるいは担当教員の指示に従う。

3) 課題レポート

- (1) 課題①「病院実習で達成したいこと」
課題②「老年看護学実習を通して学んだこと」
- (2) 用紙サイズはA4（縦置き）、表紙をつけ、内容は2000字程度にまとめる。
手書き（ペン書き）・PC使用いずれでも可。
- (3) 表紙には、左上に科目名・担当教員名・実習指導者名、中央にテーマ、右下に提出年月日
学生証番号・氏名を記載する。
- (4) レポートの最後に、活用した文献を記載する。
 - ① 文献の引用および記載方法については、科学技術振興機構（JST）発行「科学技術情報流通技術基準（SIST）ハンドブックー参考文献の書き方ー（オンライン）」や、現代文明論「課題レポート作成要綱」を活用し、記載する。
 - ② 文献の引用時は、文中の引用箇所引用符を付ける。

4) 看護過程に関する記録

- (1) 実習計画表
- (2) アセスメント用紙 1
- (3) アセスメント用紙 2
- (4) 問題リスト
- (5) 看護過程展開用紙
- (6) プロセスレコード

5) 提出方法

- (1) 日々の実習開始時に実習計画表を提出する。
- (2) 実習記録は、原則として実習 2 日目以降、毎朝所定の場所へ提出する。
- (3) 実習記録は、老年看護学実習最終日に提出する。1)～3) は表紙 1 に綴じ、
- 4) は表紙 2 にそれぞれ綴じ紐で綴じる。

6. 実習施設及び指導者

1) 実習施設

- (1) 東海大学医学部附属大磯病院
中郡大磯町月京21-1 TEL. 0463-72-3211 (代表)
- (2) 東海大学医学部附属八王子病院
東京都八王子市石川町1838 TEL. 042-639-1111 (代表)

2) 指導者

- (1) 指導者については各実習の開始前に提示する。

7. 交通手段

1) 東海大学医学部附属大磯病院



大磯駅 神奈中バス①番乗り場

「馬場・大磯住宅經由二宮駅北口ゆき」または「公園・虫窪經由二宮駅北口ゆき」乗車（所要時間15分）「東海大学大磯病院」下車 徒歩2分

「中沢橋經由二宮駅南口ゆき」または「山下經由二宮駅南口ゆき」乗車（所要時間15分）「月京」下車 徒歩2分

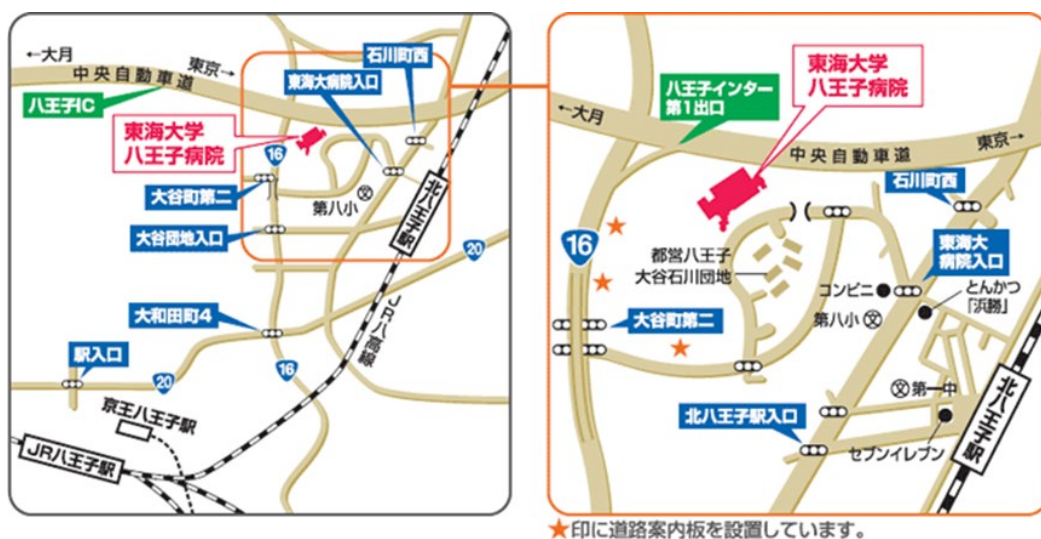
二宮駅北口 神奈中バス③番乗り場

「馬場・大磯住宅經由大磯駅ゆき」または「大磯運動公園前ゆき」乗車（所要時間10分）「東海大学大磯病院」下車 徒歩2分

二宮駅南口 神奈中バス③番乗り場

「中沢橋經由平塚駅北口ゆき」または「山下經由平塚駅北口ゆき」乗車（所要時間10分）「月京」下車 徒歩2分

2) 東海大学医学部附属八王子病院



J R 八王子駅 西東京バス①番乗り場

「東海大学八王子病院ゆき」または「大和田・東海大病院經由宇津木台ゆき」または「日野駅ゆき」乗車（所用時間20分）「東海大学八王子病院」下車

J R 八高線「北八王子駅」下車 徒歩15分

【単位および実習評価】

1. 3単位（3週間）
2. 東海大学医療技術短期大学看護学実習に関する細則の規定により実習評価は、実習日数の3分の2以上出席した者を対象とする。
3. 行動目標に基づき達成度を評価し、実習評価表に記載する。
 - 1) 達成度の欄に「よい 2点」「ふつう 1点」「要努力 0点」とし、各50項目の評価を行う。
 - 2) 中間評価は、（黒丸●）を記入する。
 - 3) 最終評価は、（白丸○）を記入する。
 - 4) 最終評価で同じ評価の場合は、（二重丸◎）を記入する。
 - 5) 最終評価では点数を記入し、自己評価を文章化し記載する。
 - 6) 出席日数（欠席・遅刻・早退）を記載し、学生署名を記載する。
4. 最終評価面接は原則として、学生・臨床指導者・担当教員の3者間において実施する。
5. 病院実習（3単位）の評価は60%以上を合格とする。
6. 老年看護学実習としての総合評価は、介護老人福祉施設実習1単位（1週間）の目標達成度と合わせて、S・A・B・C・D・Eの6段階で4単位（4週間）を総合判定する。

	学習課題	学習方法	留意点
実習前	① 事前課題を提出する。 「病院実習で達成したいこと」	① 左記のテーマでレポートを作成し、初日に担当教員へ提出する。	① 表紙をつけホチキスでとめる。 ペン書きとする。
	② 実習病棟の代表的な疾病・障害、治療、検査および看護の原則について復習する。	② 既習の学習内容を復習し、実習で活用できるようにまとめる。 実習前技術チェックにおける学びについても、実習中の看護実践に活かせるように取り組む。	② 実習中、実習指導者や担当教員に提示を求められた場合、いつでも提示できるように準備しておく。 ★ 事前学習ノートの活用(随時追加)
	③ 実習の目的・目標を確認し不明な点を明確にする。	③ 実習要項を熟読する。分からない言葉は教科書、辞書等で調べる。	③ 疑問・不明点は曖昧にしない。自身の行動がイメージできるか確認する。
	④ 既習の学習内容を復習する。特に看護技術に関しては、臨床において実施可能なレベルまで事前学習しておく。	④ 看護技術演習は担当教員に申し出て、日程・技術項目等を確認し調整する。	④ 担当教員と連絡をとり、計画的に早めに開始する。 ★ 看護技術チェック 月 日() 限

週	スケジュール (実習時間:8:30~16:30、学内実習:9:20~16:40)	学習方法	留意点
---	---	------	-----

【記録提出(1週目):2日目以降 毎朝 所定位置へ提出】アセスメント用紙1・2は必ず提出(3日目のカンファレンス時アセスメント用紙2使用)
問題リスト、看護過程展開用紙 は記載時提出

月 [1]	① 全体オリエンテーション 老年看護学より 8:30~ 看護部より 9:00~ 病棟別	① 実習の目的・目標、実習方法、注意事項などのオリエンテーションをうけ、実習に活かせるように内容を把握する。 実習開始にあたり看護部長へご挨拶する。 実習指導者にご挨拶し、老年看護学実習における各自の課題を発表する。	① 言葉の意味を具体的な行動としてイメージしながら、不明な点は確認する。
	② 各病棟に移動し、受持患者の紹介情報収集、アセスメント	② 実習開始にあたり病棟責任者へご挨拶する。 受持患者への挨拶の後、コミュニケーションを図りつつ、カルテ・カードックス等から情報を収集する。	② 翌日以降の援助に繋がれるように、療養中のスケジュールや患者の思いを把握する。
	③ 15:00まで 翌実習日の行動調整 (全実習日共通)	③ 実習グループメンバーの行動予定と調整し、実習指導者と確認しておく。 (全実習日に共通して行う)	④ 各メンバーの情報収集活動に着目することから、自身では気付けない部分にも視野を広げ翌日の情報収集活動に役立てる。 積極的に発言し、共有学習を通して、お互いの思考整理に役立てる。
	④ 15:00~16:00 カンファレンス 「受持患者の情報収集・アセスメント」	④ 情報収集活動(受持患者や病棟職員との関わり、記録類の把握など)を通して不明な点、気になる点、疑問点などについて、メンバーと共有し必要時助言を得る。	⑤ 実習要項総説の「実習記録の記述と取り扱い上の留意事項」を確認し、実習記録(個人情報)の管理に細心の注意を払う。 (全実習日に共通して行う)
	⑤ 学習及び記録整理 (16:30まで)	⑤ 関連した学習内容を深めたり記録整理を行う上で、教員・実習指導者から助言を得るなど効果的な時間にする。	

火 [2]	① 受持患者への援助場面の参加・見学、アセスメント	① 看護師とともに受持患者の援助場面を見学・参加する。 カルテ・カードックス等より必要な情報を収集する。 受持患者と関わり、患者の反応やそれに対応する自分について考える。	① 病棟および受持患者の1日の生活の流れを把握する。 受持患者に行われている治療・処置・検査等を把握する。 受持患者の病態や看護に関する情報を把握する。
	② 15:00~16:00 カンファレンス 「受持患者の情報収集・アセスメント」	② 実習[1]日目④と同様。	② 実習[1]日目④と同様。
	③ 学習及び記録整理(16:30まで)	③ 実習[1]日目⑤と同様。	

水 [3]	① 受持患者への援助場面の参加・見学、アセスメント	① 実習[2]日目①と同様。	① 実習[2]日目①と同様。
	② 指導を受けながら援助一部実施	② 援助を実施する際は、文書で実施方法・注意点を示して指導を受けたうえで実施する。	
	③ 15:00~16:00 カンファレンス 「受持患者の全体像」	③ 得られた情報を整理して発表する。その際、メンバー間で意見交換を行うとともに教員・実習指導者から助言を得る。	③ 共有学習を通し、自己の収集した情報から考えたこと、不足する情報などを明確にする。
	④ 学習及び記録整理(16:30まで)	④ 実習[1]日目⑤と同様。	

木 [4]	① 受持患者への援助場面の参加・見学、アセスメント	① 実習[2]日目①と同様。 今後の看護実践に向けての考えを実習指導者に伝え、助言を得る。	① 実習[2]日目①と同様。
	② 指導を受けながら援助一部実施	② 実習[3]日目の②と同様。	
	③ 15:00~16:00 カンファレンス 「受持患者の看護の方向性」	③ 受持患者に現在必要とされる看護について発表する。その際、着目した看護が必要とされる理由も説明し、メンバー間で意見交換を行うとともに教員・実習指導者から助言を得る。	③ 積極的に発言し、共有学習を通して、お互いの思考整理に役立てる。 他者の着目点を活かし、自身では気付けない部分の視野を広げる。
	④ 学習及び記録整理 (16:30まで)	④ 実習[1]日目⑤と同様。	

【記録提出(提出方法は担当教員に確認)】アセスメント用紙1・2、問題リスト、看護過程展開用紙

金 [5] 学内	① 9:20~ 実習記録の整理 アセスメント、全体像把握、看護問題の抽出、看護目標設定、看護計画の立案	① 受持患者の看護過程の記載を進める。 ・情報整理・アセスメント・看護計画立案に伴う疑問点は参考書・文献等を活用し、学習を深める。 ・受持患者の援助に関して、視聴覚機材等を効果的に活用し学習を行う。	①② アセスメント用紙1・2を丁寧に見直し、受持患者の全体像をどこまで把握しているかを客観的に評価し、不足部分を補い、看護計画に反映していく。
	② 13:30~ 記録用紙は原則ファイルに綴じて提出 担当教員より指導を受ける	② 記載した実習記録用紙および学習した内容を担当教員に提出する。 ・疑問点や曖昧な部分については、そのままにせず積極的に助言を求める。	援助内容については、目的、必要物品、方法、留意点、観察事項等について具体的に記載し、実施に向けた準備を行う。 ★ 学内においても実習記録(個人情報)の管理には細心の注意を払う。

週	曜	スケジュール (実習時間:8:30~16:30、学内実習:9:20~16:40)	学習方法	留意点
【記録提出(2週目全実習日共通):毎朝 所定位置へ提出】 アセスメント用紙1・2、問題リスト、看護過程展開用紙				
第二週	月 [6]	① 受持患者への看護計画に基づいた看護実践、評価・修正 ② 15:00~16:00 カンファレンス 「受持患者の看護計画」 ③ 学習及び記録整理(16:30まで)	① 看護上の問題、優先順位を確認し、援助場面に参加・実施する。 援助の実践は、看護師(実習指導者・教員・スタッフ)の指導を受けながら実施する。また初回は必ずどのような援助でも指導の下で行う。 学生単独では絶対に行わない。 ② 看護計画の意図、工夫点、修正が必要な点等について、積極的かつ建設的な意見交換を行う。実施の振り返りに関しては、良かった点・改善が必要な点について、積極的かつ建設的な意見交換を行う。 ③ 実習[1]日目⑤と同様。	① どのような援助であろうとも、許可なく学生単独で実施してはならない。 許可を得て、学生が単独で実施する場合は、実施直前と終了直後に必ず許可を得た人に報告する。 ② 積極的に発言し、共有学習を通して自己の考察を深める。 実施後のアセスメントにおいては、実施の振り返りの部分のみでなく、次回の援助につながる視点についても明確にする。
	火 [7]	☆ 中間評価面接 (時間、場所は担当教員と確認) ① 受持患者への看護計画に基づいた看護実践、評価・修正 ② 15:00~16:00 カンファレンス 「受持患者の看護計画」 ③ 学習及び記録整理(16:30まで)	☆ 行動目標に基づき、達成状況を自己評価し、評価表に記載し面接時に持参する。 評価表の視点から目標達成状況および目標達成に向けた今後の取り組みについて口頭で述べる。 ① 実習[6]日目①と同様。 ② 実習[6]日目②と同様。 ③ 実習[1]日目⑤と同様。	☆ 各項目3段階評価で自己評価を行い、●印を記入する。 簡潔に述べるができるよう準備して臨む。 3者間の評価および今後の方向性の一致を図る。 ① 実習[6]日目①と同様。 ② 実習[6]日目②と同様。
	水 [8]	☆ 中間評価面接 (時間、場所は担当教員と確認) ① 受持患者への看護計画に基づいた看護実践、評価・修正 ② 15:00~16:00 カンファレンス 「看護問題解決に向けた実践内容の評価・修正」 ③ 学習及び記録整理(16:30まで)	☆ 実習[7]日目と同様。 ① 実習[6]日目①と同様。 ② 実習[6]日目②と同様。 ③ 実習[1]日目⑤と同様。	☆ 実習[7]日目と同様。 ① 実習[6]日目①と同様。 ② 実習[6]日目②と同様。
	木 [9]	☆ 中間評価面接 (時間、場所は担当教員と確認) ① 受持患者への看護計画に基づいた看護実践、評価・修正 ② 15:00~16:00 カンファレンス 「看護問題解決に向けた実践内容の評価・修正」 ③ 学習及び記録整理(16:30まで)	☆ 実習[7]日目と同様。 ① 実習[6]日目①と同様。 ② 実習[6]日目②と同様。 ③ 実習[1]日目⑤と同様。	☆ 実習[7]日目と同様。 ① 実習[6]日目①と同様。 ② 実習[6]日目②と同様。
	金 [10]	① 受持患者への看護計画に基づいた看護実践、評価・修正 ② 15:00~16:00 カンファレンス 「2週間の振り返りと最終週への課題」 ③ 学習及び記録整理(16:30まで)	① 実習[6]日目①と同様。 ② 看護実践の評価や、疑問点の解決、週末に取り組む課題等、テーマに基づいて積極的かつ建設的な意見交換を行う。 ③ 実習[1]日目⑤と同様。	① 実習[6]日目①と同様。 ② 実習[6]日目②と同様。

週	曜	スケジュール (実習時間:8:30~16:30、学内実習:9:20~16:40)	学習方法	留意点
第三週	【記録提出(3週目全実習日共通):毎朝 所定位置へ提出】アセスメント用紙1・2、問題リスト、看護過程展開用紙			
	月 [11]	① 受持患者への看護計画に基づいた看護実践、評価・修正 ② 15:00~16:00 カンファレンス ③ 学習及び記録整理(16:30まで)	① 実習[6]日目①と同様。 看護技術体験記録を確認し、未体験項目あるいは、より習熟したい看護技術の体験の機会を持つ。 ② 状況に応じたテーマの選定を含め、積極的かつ建設的な意見交換を行い、効果的な共有学習にする。 ③ 実習[1]日目⑤と同様。	① 実習[6]日目①と同様。 体験したい項目とその理由、該当する患者について教員・実習指導者と相談する。 ② 実習[6]日目②と同様。 カンファレンステーマは、グループで話し合い決定する。当日の昼までに参加者全員(指導者、教員を含む)にあらかじめ伝達する。
	火 [12]	① 受持患者への看護計画に基づいた看護実践、評価・修正 ② 15:00~16:00 カンファレンス ③ 学習及び記録整理(16:30まで)	① 実習[11]日目①と同様。 ② 実習[11]日目②と同様。 ③ 実習[1]日目⑤と同様。	① 実習[11]日目①と同様。 ② 実習[11]日目②と同様。
	水 [13]	☆ 最終評価面接 (時間、場所は担当教員と確認) ① 受持患者への看護計画に基づいた看護実践、評価・修正 ② 15:00~16:00 カンファレンス ③ 学習及び記録整理(16:30まで)	☆ 評価表の視点から目標達成状況について口頭で述べる。 ① 実習[11]日目①と同様。 ② 実習[11]日目②と同様。 ③ 実習[1]日目⑤と同様。	☆ 簡潔に述べるができるよう準備して臨む。 中間評価からの変化とその要因について考える。 3者間の評価の一致を図る。 ① 実習[11]日目①と同様。 ② 実習[11]日目②と同様。
	木 [14]	☆ 最終評価面接 (時間、場所は担当教員と確認) ① 受持患者への看護計画に基づいた看護実践、評価・修正 ② 最終カンファレンス(病棟毎に1時間設定) 「病院実習を通して学んだこと」 ③ 受持患者および病棟へ挨拶 実習中に使用した物品の清掃・整頓	☆ 前日と同様。 ① 実習[11]日目①と同様。 ② 各自、実習内容を総括するとともに、実習グループメンバーの意見も聞き学習内容を深める。また、今後に向けての課題を明確にする。	☆ 前日と同様。 ① 実習[11]日目①と同様。 ② 各自、積極的な姿勢で臨む。 感想レベルで留まらず、考察内容を基にディスカッション出来るように各自意識して臨み、円滑な進行に協力する。
金 [15]	① 9:20~ 実習記録の整理、まとめ ② 課題レポートの完成 「老年看護学実習を通して学んだこと」 ③ 16:40 実習記録の提出	① 3週間の実習内容を振り返り、実施内容や目標達成状況の評価を記載する。 老年看護学実習要項の「実習記録と提出方法」を確認し、提出記録内容に不備(誤字・脱字、記録用紙の不足、綴じ方、等)の無いように整える。 看護技術到達度記録の体験した項目について記載する。 ② 課題レポート内容には、「高齢者および高齢者を支援する人々との実際の関わりや、受持患者の看護実践を通して、自己の老年観・人生観・看護観をどのように捉えるか」の視点を盛り込んで作成する。 ③ 看護技術到達度記録は、内容を担当教員と確認した後に返却してもらうこと。 (次の実習で使用するため)	☆ 学内においても実習記録(個人情報)の管理には細心の注意を払う。 ② レポートについては、提出日完成に向けて計画的に作成を進め、提出に遅れないようにする。	

実習計画表

週間実習目標	月 日 ()		月 日 ()		
	日々の目標				
		時間 受持患者	行動計画	時間 受持患者	行動計画
	実習内容	— — — — — — — — — —		— — — — — — — — — —	
	実習 週 / 週	全実習 週 / 週	学生氏名 :		受持患者 :

実習計画表

	月 日 ()		月 日 ()		月 日 ()	
日々の目標						
	時間 受持患者	行動計画	時間 受持患者	行動計画	時間 受持患者	行動計画
実習内容	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
実習 週 / 週		全実習 週 / 週		学生氏名 :		受持患者 :

情報とその意味 (解釈・分析)

生活行動 様式	
健康認識 健康管理	
呼吸・循環 体温調節	
栄養・代謝	
排泄	
活動・休息	
皮膚粘膜の 保全	
性・生殖	
感覚知覚 伝達	
自己像・ 自己実現	
役割・関係	
その他	

アセスメント用紙2 (対象の全体像)

受け持ち患者

学生証番号

学生氏名



*関連図・図・絵などを用いて記載する

看護過程展開用紙

受け持ち患者

学生証番号

学生氏名

日	情報 (初期データ・追加データ) 実施の事実・結果・対象の反応	日	アセスメント (実施の評価)	日	問題点	日	患者目標	日	具体策
							目標の達成状況		

プロセスレコード

日時： 月 日

学生氏名： _____

患者概要：

プロセスレコードをとった理由：

場面状況：

私が知覚したこと	私が考えたり 感じたりしたこと	私が言ったり 行ったりしたこと	分析・考察

分析・考察を通してどのような気づきが得られたか